



編集・発行

国立大学法人鹿児島大学男女共同参画推進センター 〒890-8580 鹿児島市郡元1-21-24
TEL 099-285-3012 E-mail : gender@kuas.kagoshima-u.ac.jp http://atsuhime.kuas.kagoshima-u.ac.jp/

■ 女子中高生のための鹿大科学体験塾～理系女子(リケジョ)ってカッコイイ!～を開催 ～85人の女子中高生が実験や女子学生との交流を体験～

11月に理工系5学部による「女子中高生のための鹿大科学体験塾」を開催し、10コース(各学部2コース)に女子中高生計85人(中学生47人、高校生38人)が参加しました。理工系に進む女子が少ない現状を踏まえ、女子中高生を対象に、理工系学部が実験等を通じた科学の体験機会やロールモデルとなる女子大学院生との交流機会を提供することで、理工系への関心を持ってもらう契機とすることを目的としたものです。

理学部

おいでよ!理学部へ! ～楽しい理科体験実験への招待～

体の中で働いている酵素の働きを観察したり、金や銀のナノ粒子を作って、光の手法によりミクロの世界を体験しました。



酵素の働きを見てみよう



光で探るミクロの世界

農学部

農ガールになろう! ～食料生産を支えるミクロの世界～

家畜の体外受精の実験で受精の瞬間を確認したり、様々な土壌微生物を顕微鏡で観察しました。



生命誕生の神秘



農地にいる小さな生き物たち

共同獣医学部

動物おもしろ発見!

モグラの生態観察・標本作りを通じて野生生物が生息する環境を考えたり、ウマ・ウシ・ブタの観察や飼育・診療を体験しました。



モグラの地中生活



産業動物ってどんな動物?

工学部

工学女子になってみる!

女性建築家から建築の魅力の話や聞き、生活空間を設計したり、洋服のコーディネートを通じて目の錯視がファッションなどにどう応用されているかを実感しました。



女性建築家に聞く建築の魅力&身近な生活空間をデザインしよう



目の不思議を体験してみよう

水産学部

海のプロフェッショナルになろう!

顕微鏡を用いて水温や餌などの環境によって異なる様々なプランクトンを観察したり、プリを用いて鮮度や食感を左右するタンパク質を取り出す実験を行いました。



海の中のマイクロワールドを体験しよう



刺身の鮮度を色で科学する

女子中高生からは、「今回の体験を通じてさらに興味が深まった」「今まで学んだことのないことに挑戦できて刺激になった」などの声が聞かれ、各学部での実験や女子大学院生との交流等を通じて科学の世界への関心を深め、学生生活や卒業後の進路情報を得るなどして、進路選択を考える有意義な機会となったようです。



学生や教員との交流会



■ [museカフェ]を開催

✂ 農学部 渡部准教授が女子学生にロールモデル講話

11月13日、女子学生を対象とした「museカフェ」で、農学部の渡部由香先生によるロールモデル講話と交歓会を開催し、女子学生15人が参加しました。渡部先生は、キャリアを続ける上での秘訣として「完璧主義者にならない」「他人に頼ることをためらわないこと」と助言しました。また、研究者を目指している学生からの「研究者には、性別で向き不向きがあるか?」の質問には、「性別に関係なく、自分が研究が好きなのか、その分野や対象物が好きなのか、考えることが大事」と応えるなど、今回の交流は、学生にとって今年度スタートしたメンター制度のメンター登録者でもある渡部先生との集団メンタリングにもなったようです。



✂ 女性研究者間ランチミーティングを開催

11月28日、「museカフェ」(郡元地区女性研究者間ランチミーティング)を開催し、女性研究者と理工学研究科の技術職員10人が参加しました。

参加者の自己紹介に続き、女性研究者の生き方についてフリートークしました。「女性研究者が少ない分野では、性別を意識することはなかった。研究に性別は関係ない」「自分の立ち位置を考え、グローバルな視野を持つべき」「積極的に外部資金獲得に向けた申請をしたほうがいい」など女性研究者自身の意識の持ち方が大事との意見が多く出され、博士後期課程に在学中の女性技術職員には女性研究者ロールモデルの生の声を聞く有意義な機会となりました。



■ 第2回女性研究者キャリア形成セミナーを開催



12月6日、長崎大学男女共同参画推進センター長の久美子先生を講師として、女性研究者キャリア形成セミナーを開催し、研究者、看護師や学生等35人が参加しました。

大井先生は、歯科麻酔医師になるまでの経緯、長崎大学での研究活動や副病院長・副学長としてのキャリアにおいて看護師等の支援が支えになったことや、その過程で困難にぶつかりながらも副学長として、女性研究者支援をはじめとする男女共同参画を精力的に推進してこられた経験を披露しました。

また、女性医師の復帰支援プログラムの整備充実や育児期の女性医師に対する勤務のシフトチェンジなどの配慮が男女ともによりよい就業環境の創出につながることや、女性であることのメリットを活かして自然体であることの重要性について指摘しました。参加者は、大井先生のユーマアを交えながらの経験に裏打ちされた話に熱心に聞き入っていました。



■ 附属図書館・男女共同参画推進センター連携企画「知ってますか? 男女共同参画」を開催

附属図書館と男女共同参画推進センターは12月3日から21日にかけて、附属図書館1階ギャラリーアトリウムにおいて、(独)日本女性教育会館の図書パッケージ貸出サービスによる男女共同参画関連図書200冊の貸出と男女共同参画推進センターの活動を紹介するポスター展を実施しました。貸出サービスは、後期開講の共通教育科目「男女共同参画とキャリアデザイン」受講学生の参考文献にもなったほか、27枚のパネルを用いて男女共同参画推進センターの取組や、オープンキャンパス時に女子大学院生により女子高校生に向けて紹介された研究活動のポスターなどが展示されました。



■ 鹿児島市「サンエールフェスタ」に参画

2月3日、鹿児島市の男女共同参画のイベントである「サンエールフェスタ」において、ワークショップ事業に参画しました。会場となった鹿児島市サンエールの交流サロンで、女子大学院生6人の協力による「museカフェ」～女子大学院生に聞く、鹿大ナウ!～を実施。6人の女子大学院生が、来場者に対して、ポスターを使って、研究対象物や研究の意義など研究活動内容について紹介したり、カフェをしながら、学生生活などについて話題提供したりして、市民と交流しました。参加者からは、「研究の多様さや着眼点に驚いた」といった声が聞かれました。





理工学研究科
横川 由起子 講師
(男女共同参画推進委員会委員)

理学部では、9月に策定しました「部局等における男女共同参画推進に係る方針等」（部局等方針）において、女性研究者の研究環境の整備や女子学生のキャリア形成支援などを掲げ、理学部男女共同参画推進委員会において定期的に協議しています。部局等方針の取組の一環として、理学部化学科の卒業生で、(株)TRIテクノの代表取締役社長 長野悦子氏を講師にお招きして、昨年12月に第1回ロールモデル講話を開催しました。教員8人・学生29人の計37人が聴講しました。

講話では、女性が結婚・出産とともに退職し家庭に入るといった風潮が一般的であった時代に、上司の理解や家族、両親、保育園仲間の協力が不可欠であったことや、一時期がんばっても会社での評価が低くネガティブ思考に陥った時に、仕事・家庭・育児を総合的にとらえることでプラス志向に変わったことなど、育児をしながら仕事を継続されてきた長野氏の豊富な経験談を聞くことができました。女性が育児をしながら働き続けることの難しかった時代に、パイオニアとして仕事と生活の両立、さらに社長までキャリア・アップされてきたという経験に裏打ち

された話は、学生にとって説得力のあるものでした。

また、今回のロールモデル講話は、これから社会に出ていく女子学生だけでなく、男子学生に対する男女共同参画への意識醸成に大きく寄与したものと思います。

大学での女性の理系教員はまだまだ少ない中で、理学部においても女性研究者の増を図ることを目標にしています。現在女性教員は3人ですが、大学院も女子学生が増えてきていますし、今回のロールモデル講話をはじめ、取組を積極的に推進していくことで、女性教員の増加や研究職志望の女子学生の増加につなげていければと考えています。



ロールモデル講話する長野(株)TRLテクノ社長

■ 理工学研究科(工学系)で女性教員着任へ

平成20年度から女性教員が不在だった理工学研究科(工学系)に平成25年4月女性教員(助教)が着任します。理工学研究科(工学系)がポジティブ・アクションとして助教ポストに一つの女性限定枠を設けて全学科の研究分野を対象として公募し、10人の応募者の中から選考されました。この女性教員が4月の着任後直ちに研究を立ち上げられるように、平成24年度の工学部長裁量経費と所属予定専攻の予算を用いて、スタートアップ支援を行っています。

■ 女性医師等支援センターを設置

医学部・歯学部附属病院では、女性医師や看護師等の臨床現場定着や復帰支援、子育てとキャリアアップの両立を目指した女性医師や看護師等を育成する拠点として、女性医師等支援センターを平成25年1月に設置しました。今後、勤務環境の改善、復帰トレーニング支援、さくらこ保育園と連携した子育て支援やその他ワークライフバランス支援等を展開していく予定です。

■ 出前授業「研究者への道」を開催

11月9日、水産学部の久賀みず保助教が鹿児島市の志学館高等学校において出前授業を行いました。久賀先生は、「『食』への情熱」という演題で、1年生118人(女子69人、男子49人)に対して、自身の研究テーマの水産流通学の観点から、豊かな食生活の維持と日本の水産業の保全に係る行動の意義等について説明した後、海外留学や民間企業等での経験談や今に至るまでのキャリアについて披露し、「『成し遂げたい何かを見つけること』で、人は自然に努力でき道が拓け、自己実現できる」と力強く語りました。

生徒からは、「職業ではなく、まず成し遂げる何かを見つけたい」「働く女性の姿を見ることができてよかった」「研究者とはどんなものかがわかった」などの声があり、生徒のライフプランニングの一助となったことが伺えました。



■ 学生サークル「さんサポ」(男女共同参画サポーター)

さんサポは、教育学部の学生が共通教育科目「男女共同参画とキャリアデザイン」の受講をきっかけに男女ともに活躍できる暮らしやすい社会づくりに貢献したいとの思いから、ボランティア・サークルとして平成23年8月に結成したものです。これまでに、入試時の保育支援やオープンキャンパス「museカフェ」など、男女共同参画推進センターの様々な企画運営に参加しています。

社会的には仕事と家庭が両立できる制度は整備されてきてはいるものの、まだ十分に活用されているとはいえ、大学内でも男性の育児休業の取得率や女性研究者の数は少ないのが現状のようです。私たちは、活動を通して得られた経験を糧に、卒業後、男女共同参画社会の実現に向けた役割を果たしていきたいと思っています。



「お父さんと作るクリスマスケーキ」での様子

鹿大の女性研究者に Close-up!

鹿児島大学で研究している女性研究者を紹介します。



清水 香 講師 (教育学部 美術科)

Profile

2000年 3月 倉敷芸術科学大学芸術学部 卒業
 2002年 3月 信楽窯業技術試験場 素地焼成科・釉薬科 修了
 陶芸家 森正氏に師事
 2010年 3月 金沢美術工芸大学大学院博士後期課程修了 博士号(芸術)取得
 2010年10月 教育学部講師
 2013年 4月 同 准教授(予定)
 ▶主な受賞… 国際陶磁器展美濃陶芸部門 銀賞、セラミックアートFuji国際ビエンナーレ 奨励賞、
 長野県美術展 八十二文化財団賞、キリアートコンクール 特別賞 ほかに選多数

— 土の素材を活かし、土との“対話”の中で表現

陶芸には様々な技法がありますが、私は土そのものの美を探求しながら、自分の観念を土に投影して表現することを研究課題としています。この研究に至ったきっかけは、ろくろで制作中、手についた余分な泥を桶の縁でこそぎ落としたときに、そこにできた小さな土の造形美でした。残るのか捨てられるのか生と死の瀬戸際である小さな土の塊に、はかない美しさや強いエネルギーを感じました。それこそが、長年私の中で蠢いていて表に出したかった「何か」だったのです。そこから、現在の制作へとつながっています。

— 制作する自分の存在理由を突き詰める

大学院の時、内面的なものを表現したい欲求がありつつも、その技法を見い出せず試行錯誤の日々でした。あるとき、制作した作品を人の真似だと酷評され、挫折を味わいました。そこで自分とは何か、なぜつくるのか、自分の人生を見つめ直していく過程で、自分には死へのトラウマがあることに気づいたのです。自分の心の内を土によってさらけ出すことで、死への恐怖から「生」を伝えるべく作品を生み出すことができました。生と死を同一の場面に表すことで生の確かさを初めて明確にできたのは、まさにこのときでした。

— 制作に必要な「引き出し」を増やすために…

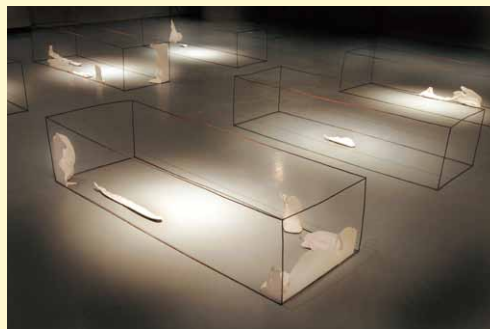
私にとって陶芸は、生きることそのものですのでオンとオフをあまり明確に切り替えてはいないです。例えば、旅行が好きですが、五感を使ってそれぞれの土地の自然、食、人、建物、においや風など、すべてのものを体感し体に記憶させています。また、制作の素材として気になった物のラインや様々な物の質感など、必

ず写真に収めています。これらがいつか制作で必要になったときに、自然と引き出しから出てくるのです。



— これから社会に出て行く若者、研究者を目指そうとする方へのメッセージ

何をやりたいのかわからないと悩んでいるよりも、できるだけいろいろなものに興味をもって、とにかくすべてやってみる。自分の「引き出し」が多いほど、本当に自分の好きなことを見つめるときに役立つし、人生の幅を広げてくれます。



<生08-1>
 2008年/第8回国際陶磁器展美濃陶芸部門 銀賞受賞作品シリーズ
 実物大の棺を模した針金の枠の中に、土の流動性を活かして生の象徴とした白い磁土を配置することで、隣り合わせにある生と死を表現

Q-wea情報

Q-wea:九州・沖縄アイランド
 女性研究者支援ネットワーク

● 第4回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウムを大分で開催

九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク(Q-wea)は、12月15日に女性研究者支援シンポジウムを開催しました。本学からは島 秀典理事・男女共同参画推進室長がパネリストとして登壇。女性研究者研究活動支援事業終了後の体制や予算など、持続的な女性研究者支援のあり方をめぐって、パネルディスカッションがありました。



男女共同参画推進センター短訊

*お父さんと子どもがケーキ作りに挑戦

12月22日、教職員のお父さんと子どもとの交流を深める企画として「お父さんと作ろう!クリスマスケーキ」を試行的に実施し、教職員3組の親子がクリスマスケーキ作りを楽しみました。ラウンドケーキに生クリームを塗ったり、作ったクッキーやフルーツで飾り付けをしたりして父子で楽しい時間を過ごしました。



*大学入試センター試験時保育支援を実施

大学入試センター試験時に試験監督等に従事する乳幼児や学童を持つ教職員に対する保育支援を1月19日・20日に実施しました。今回、鹿児島市内の保育施設と桜ヶ丘地区のさくらっ子保育園での一時保育支援に変更し、教職員3人が利用。利用者からは「日曜日は利用可能な施設が少ないので助かった」「安心して入試業務に従事できた」と好評でした。



Information

「輝く女性研究者たち -鹿児島大学ロールモデル集-」

▶16人の女性研究者(卒業生2人を含む)の研究活動をはじめ、これまでのキャリア形成の軌跡を紹介したロールモデル集を刊行しました。(男女共同参画推進センターホームページにも掲載予定)



「育児・介護支援制度案内」

▶平成24年3月に刊行した「育児・介護支援ガイド」のダイジェスト版を作成し、教職員のみならずさまに配布する予定です。

編集後記

平成24年度、女性研究者支援体制の整備充実や「部局等における男女共同参画推進に係る方針等」の策定など、本学の男女共同参画を推進していく新たな基盤ができました。今後センターと部局が一体となった取組が広がっていくことが期待されます。